

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0870600319		
法人名	株式会社ユニマツ リタイメント・コミュニティ		
事業所名	下館ケアセンターそよ風		
所在地	茨城県筑西市甲44		
自己評価作成日	平成28年7月8日	評価結果市町村受理日	平成28年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_2013_022_kani=true&amp;JivgyosvoCd=0870600319-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_2013_022_kani=true&amp;JivgyosvoCd=0870600319-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成28年8月24日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

家庭での生活の延長のように、ご利用者様が何不自由なく生活していけるように、個別に支援することにより、職員の間に関係感が芽生え、ホール内に明るい声が響き渡る環境である。様々な認知症ケアの研修を受けた職員が、それに基づいたケアを行うと共に、更なる質の向上を目標に掲げ日々の支援に活かされている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

センター長・管理者・職員ともに、利用者個々の生活支援の提供において、マニュアル通りではなく利用者一人一人に合わせた支援を実施し、残存機能の維持とレベルの継続に向けて、統一したケアの提供に取り組んでいる。職員の力量に応じ研修会・勉強会・内外研修を受講し、認知症を理解したうえで介護の提供を行うことにより、職員と利用者の信頼関係が深まり、笑顔と笑いのある明るい事業所を築けていると感じた。保育園児・小・中・高校生との交流や地域住民に向けた介護相談を実施してアドバイスを行ったり、関係機関につなげたり、事業所主催のイベントに地域住民に参加してもらい、認知症・事業所に対する理解を得ている。同法人のデイサービスと一緒にカルチャー(フラワーアレンジメント・押し花・バステルアート)に取り組み、利用者の励みとなっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、事務所に掲示し毎日の朝礼時に理念、月間目標の唱和を欠かさず実施し共有化と各職員の意欲向上を図っている。	法人・事業所独自の3つの理念を事務所の視界に入るところへ掲示している。月間目標も掲げ、朝礼時に唱和して確認し、管理者と職員は理念を共有し実践につなげている。職員からは利用者とのかかわりを重視し、声掛けを積極的に行い、少しの変化でも把握できるように心がけているという話があった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧板を通し、併せて広報誌等により地域活動の情報収集に努める一方、地域の方々をイベント等にご招待する機会を設け親睦を深めている。	自治会に加入し、回覧板・広報誌等で地域のイベント(商工祭・夜市・文化祭・盆踊り・祇園祭は神輿が前庭に来てくれる。)を情報収集し参加している。納涼祭は多数の地域住民の協力を受けて盛大に開催し親睦を深めている。今年は婦人会の提案で利用者に浴衣を着てもらい(着付けは婦人会)お化粧もして実施した。ボランティア訪問(歌・バンド・踊り・傾聴等)があり、利用者は楽しいひと時を過ごしている。地域に向けて介護・福祉に関する広報誌を発行したり、相談を受けアドバイスを行ったり、関係機関につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	独自の月刊新聞を発行し、医療、福祉、介護及びグループホームの役割など情報を掲載し回覧板等を通し、発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	率直な意見を頂ける関係を構築しており内容に関しては即、支援に反映。また夜間想定避難訓練の実施協力も継続して体制を確保していく。	2か月ごとに家族代表・自治会長・区長・民生委員・行政・事業所関係者の構成メンバーで会議を行っている。主な議題は利用者状況・行事予定・報告・事故報告であり、席上出た意見を(図書館利用の提案があり、実施した)サービス向上に活かしている。避難訓練の協力体制は会議を通して依頼を行っている。家族には広報誌で報告、職員は議事録(今後提案に対し回答を記載する)を回覧・押印で確認し共有している。	
5	(4)	○市町村との連携  市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用者様の状況の報告、事故等に関しても速やかに相談、報告を実施。運営推進会議の場所を通し、事業所での疑問に感じる等の相談も行っている。	関係課(介護福祉課・地域包括センター)とは連絡を密にとり、協力関係を築いている。小・中・高校生に対し体験学習の場として提供している。高校生の演奏会があり、利用者は感激している。ケアマネ会に参加し行政と情報交換を行っている。子供110番設置は引き続き検討中。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践  代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止対策委員会を設置し各部署全体において勉強会を通し、身体拘束についての知識を高め、要領など全職員が周知できるよう努めている。	身体拘束防止対策委員会を設置し、勉強会を通して拘束となる行為・弊害を周知し利用者の安全に向けたケアの提供に全職員で取り組んでいる。安全上やむを得ず拘束を行う時は家族に説明し、同意を得て解除に向けた取り組みを書面に残している。スピーチロックを含め、職員が投げかけた言葉が拘束とならないか等、様々な事例を委員会で吸い上げ検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止対策委員会が中心となり、定期的な内部研修を実施。また内容に関しても全スタッフが理解できるよう情報の伝達を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護、成年後見制度の学習の時間を設け、ご利用者様の状況に適した対応に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を設け契約及び重要事項についての説明を行い、同意書を含め取り交わしを実施。また管理者を中心とし介護保険についてきちんと説明できるよう情報を共有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	率直な意見を反映できるよう、玄関先等にご意見箱を設置。また家族会などを定期的に開催し、要望に応じた体制の整備を行っている。	意見の言い出しにくい家族に配慮し意見箱の設置・第3者機関名・電話番号を明示している。面会時・家族会で要望を聞き、運営に反映している。(利用者に対する声掛け・居室での対応が重なったのでホールに職員がいない等)苦情報告書に記入し職員で検討し改善した。利用者からは日々の会話の中から吸い上げ、職員間で共有して支援に努めている。利用者の希望で映画鑑賞を検討中。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署において月2回以上の会議を開催し意見交換の機会を設けている。また日々の業務のみではなく相談や質問の解決に取り組める環境整備はなされている。	現場の気づきは(入浴支援方法・食事形態等)その都度検討し、改善に向けて取り組んでいる。月2回の会議で意見・提案の聞く機会を設けている。施設長・管理者・職員との関係は良好でなんでも話し合える楽しい職場だと職員から聞けた。個別面談や・普段の様子から不満やストレスはないかを把握し、センター長・管理者は職員に気配りをしている。内部研修・スキルに合わせた外部研修の受講を促し、レベルアップに取り組んでいる。毎日些細なことでもヒヤリハットに記入し職員で意見交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個別面談の機会を設け本人の意義、スキル確認また、業務における課題などスタッフ個人個人の心身状況の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回の内部学習会や他のセンターとの合同会議に参加。また各々の向上心を確認し外部研修の参加を促し、全スタッフに周知できるよう伝える。事業所内では3か月の教育研修を実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所などのイベントに参加し、随時情報交換を実施。また他事業所との定期的な研修を行い、学びの機会と内容の反映に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回訪問時の会話、表情から様々な情報を収集し、またご利用前に事業所の見学を勧め、スタッフとの交流の時間を確保。ご本人並びにご家族の不安を少なくするための工夫をそれぞれに実施。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所の見学などを行い、グループホームの特徴、雰囲気をご理解いただけるように対応。またサービスの利用に向けご家族の思い、事業所に向けての意向をお伺いし、個別対応の体制をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の要望をもとに、適切なフォーマル、インフォーマルサービスの情報を説明し実施。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の得意分野、趣味、習慣など生活環境の十分な情報を収集し、ご本人らしく生活できるよう考慮し、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子を迅速に伝え、相談、協力が得られるような関係のもと、共有の時間を作って頂けるようご家族に随時お伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホーム便り、また直筆の文書、写真の送付に取り組み、継続的な関係の構築に努めている。	家族に向けグループホーム便り(紙面に載せる利用者が作る俳句はいつも感心させられる)と一緒に利用者直筆の手紙や写真を同封し喜ばれている。年賀状・暑中見舞い・電話でなじみの人との関係が途切れないよう支援に努めている。友人・同僚の面会もあり、しばし会話を楽しんでいる。家族の協力を得て、お墓参り・外食・自宅泊・理美容院等に出かっている。今まで通りマッサージを受けたり、牛乳・新聞購入を続けている利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や、特性をスタッフ全員が理解し生活全般にわたりスムーズで柔軟な関係が確立できるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設への入所後の訪問や面会、転院先の紹介など、ご家族様からの様々な相談に応じ継続的に支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話、表現からご本人の思いを確認すると共に、意思伝達が困難な方に対しても表情、行動から意思を読み取れるよう検討している。	生活リハビリを兼ねて利用者の趣味やレクを(草花の手入れ・フラワーアレンジメント・俳句・図書館で本を借りる・料理・習字・裁縫・歌等)取り入れている。家族・利用者から歩行訓練を取り入れてほしいとの要望がありケアプランにつなげた。困難な場合は気持ちが表出しやすい雰囲気づくりや声掛けを行ったり、表情・様子から察知し職員間で本人本位に検討したり、職員の気づきから見直しも実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の調査を実施し、基本的な情報の収集、把握に努めながら、ご本人らしい暮らし、空間造りに努めている。また、日々の生活の中にも見出せるよう観察に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中から個人の持つ能力、可能性、心身的特徴の観察に努めている。また日々の変化を個々の支援に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の要望を確認した上で、介護の時間を通し、支援内容を計画に反映している。	利用者・家族の要望を聞き、カンファレンスで利用者の課題とケアのあり方について話し合いケアプランを作成している。作成後は家族に説明し同意を得ている。目標達成に向けた介護援助計画表・介護支援経過記録・ケース記録が運動した内容となって、3か月ごとのモニタリング・評価に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の中から確認できるニーズに関して、また申し送りの内容でスタッフが感じた情報をカンファレンス時に共有、整理、検討を重ね実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の症状や病歴を含めた変化、折々のご家族の要望に柔軟に応じられるよう、併設の事業所の特徴を活かし、また自治会の協力のもと実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の希望や要望、趣味、心身の様子に応じ、活動の機会を設け継続的且つ、新しい取り組みが出来るよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じた医師による継続的な医療体制と状況に応じた専門医療の適切な情報を提供し要望に対応。	協力医療機関医師の往診が月2回・訪問看護が週1回・併設事業所看護師と医療連携を行い、利用者の体調管理に努めている。かかりつけ医に受診は基本的には家族付き添いであるが、職員の付き添いも行っている。往診時に変化があった場合や突発時の連絡・報告は電話で行い、いつ・誰に・報告したか内容も含め、個人記録に残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師と医療連携の体制、並びに週に一回ずつの訪問看護にて健康管理を実施。日々の変化はもとより助言を頂きながら支援に反映している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供はもとより、入院による精神的な負担を考慮し、定期的な面会、病院からの情報の収集に努め、早期退院に繋がるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う変化や、事業所に出来る役割について、ご家族に説明を行い、併せて看取りの指針を文面にてご家族に伝え同意を頂いている。	契約時に看取りの指針を文面にて説明し、重度化に伴う変化や事業所でできる事・出来ないことを家族に説明し、同意を得ている。重篤時になると家族の想いは変わるので、連携医師・訪看と話し合い、他の利用者・家族に配慮しつつ、利用者にとって最善の方向に取り組んでいる。昨年は同時に3人の利用者が看取り体制となったので、職員の不安解消のため、外部講師による研修会を開催し、職員の不安は軽減され、最後の幕引きがきちんと出来たとのこと。お別れの時は居室・リビングで利用者と一緒に手を合わせ見送った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な学習会の開催と、緊急時のマニュアルの理解を全スタッフで閲覧出来るように準備している。		
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼、夜想定避難訓練の実施にて災害に備えている。また、地域の方のご理解のもと、協力を頂ける関係は構築されている。	年2回(自主・消防署指導訓練)を実施し(夜間想定・消火器使用・避難経路確認・利用者行動把握・緊急通報システム・緊急連絡網等)利用者が安全に避難できる方法を職員は身につけている。備蓄品・緊急持ち出し用品は整備している。前回の評価をうけ、地域に向けて運営推進会議や回覧板で協力依頼と依頼内容の構築を行った。	緊急通報システムが1階のデイの方には設置されているが、2階のグループホームには設置されていない。特に夜間帯の緊急時を考慮した場合、いち早く通報する為には、2階にも通報システムの必要性が高いと思うので、増設を検討されたい。地震に備え、食器棚の転倒防止対策を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳ある介護をテーマに、接遇マナーの研修の実施やお互いが訂正し合える関係が出来ている。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。接遇マナーの研修を実施し、尊厳ある介護に取り組んでいる。関係書類は事務所内に保管・情報開示に関する同意書を取り交わし個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちが出しやすい場の雰囲気作りや言葉かけに留意し、自己選択が可能な限り出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人に合わせた日々の生活が送れるよう念頭に置き、出来る限り希望に添えるよう、ケアの内容の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1日整容から季節感、また嗜好に対応し、馴染みの店舗にて散髪の実施。女性の方には希望を伺い、ヘアカラーなども行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々が担う役割を有する能力を活かしながら、参加する楽しみと食する楽しみを感じて頂けるよう支援している。	本部の管理栄養士がたてたメニューを厨房で調理し、出来上がってきた料理の盛り付けと朝食と日曜日の三食は利用者と一緒に下準備・配膳・下膳を行っている。食介を行いながら利用者の食欲・嚥下に注意を払っている。食事形態は利用者の状態に合わせて提供し、食欲が進む工夫を行っている。月3～4回のイベント食や月1回のお取り寄せスイーツは利用者に希望を聞き提供している。毎年恒例のしもつかれづくりは利用者全員で和気藹藹で作っている。外食支援も実施し利用者には好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量、チェック表の活用、また栄養士によるバランスのとれたメニューにて確保。定期的に体重管理と主治医との連携も確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	外出、食後のうがいや口腔ケアの徹底を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、ご本人のペースに合わせたパターンを把握、トイレでの排泄支援を勧めている。	排泄チェック表・表情・様子から察知し、さりげなく声掛けを行い、トイレに誘導してトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間はおむつの利用者でも昼間はリハビリでトイレで排泄する支援に取り組んだ結果、布パンツに改善した利用者がある。運動(ラジオ体操・チェアエクササイズ)・食事内容・センナ茶・腹部マッサージで自然排便に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動プログラムに沿って体操を促したり、食事内容や漢方を取り入れ、薬剤に頼らない自然な排泄を促している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り個々の希望、状況に合わせた入浴ができるよう配慮を行い、好まれない方には接遇面で工夫しながら支援している。	毎日の入浴支援を実施し気持ちよく入ってもらえる支援に努めている。季節に応じてゆず湯・しょうぶ湯を提供し利用者に喜ばれている。介護度の高い利用者には機械浴でゆっくり入浴してもらっている。皮膚感染予防として個人タオルで足をしっかり拭いている。着替えの用意は、利用者に合わせて職員と一緒に準備している。巻き爪の利用者は訪看に切ってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて休息の時間を設けたり、各々の状況に合わせた対応を実施。また1日のリズムを考慮し、日中の活動量を検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理の担当が中心。また個々の変化に合わせた薬剤管理をスタッフ側も学習。また変化に応じ適切な処方出来るよう、家族に相談のもと、主治医に相談も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴を充分に把握し、多種多様な事柄に参加頂いている。また季節感を取り入れた行事なども実施しており、今後も更に内容に工夫を検討。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に合わせ、外出や外食を推進。また、ご家族との関わりも念頭に置き、ご負担にならない範囲でのご協力の相談をさせて頂いている。	体調・天候が良ければ近くの神社や近場を散歩し、日差し・風を肌と感じ季節のうつろいや五感の刺激を受けている。家族の協力を受け、外出・外食に出かける利用者もいる。外出支援(お花見・水族館・商工祭・夜市・初詣・盆踊り・節分・輪くぐり・バラ・ひまわり・菊・コスモス見学等)に出かけている。個人支援では希望に応じ、図書館や買い物に行っている。前の駐車場にテーブルを下ろし、全員で昼食を食べるときもあり、今後は介護度の高い利用者にとどのような外出支援が実施出来るかが課題になってくると考えているとの事。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭管理能力に合わせ、自己管理していただいている。管理が困難な方に関しては、物品購入時の支払いを職員が対応し、出納の記録にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、親類、友人等関わりのある方にご理解のもと、自由に連絡が取り合えるように配慮。また年賀状などにも工夫を凝らしながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただきながら、生花、装飾など職員の工夫や感性のもと行っている。	共有空間は明るく利用者の様子が見渡せるつくりとなっている。季節の生花・飾り物(朝顔・すだれ・扇子・ひまわり等)で四季を感じる工夫があった。浴衣姿で楽し気な表情の利用者の写真が壁に飾っており、思い出の1ページを感じることが出来た。訪問当日はフラワーアレンジメントの日なので、綺麗な花が居室を飾ってくれるだろうと想像した。メニューをホワイトボードに書き、利用者に食べる楽しみを提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方との談話が行えるよう、ソファのスペースを用意。また居室の訪問も双方のご理解のもと、自由に行っていただきながら自分らしいペースを推進している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活歴を確認し、ご本人の愛用の品々などを持参して頂けるよう、ご家族の協力を頂いている。また、配置なども雰囲気も考慮し対応している。	家族の了解を得て、居室入り口に季節の飾り物と表札を明示し混乱防止に努めている。なじみの筆筒・テレビ・空気清浄機・冷蔵庫を安全面に配慮し設置している。趣味の俳句・家族の写真・姪御さんの結婚式の写真・位牌・小物等で個性活かし、特徴ある居室となっている。掃除は職員と一緒にいき、清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	了承確認のもと、自室の表札の表示やトイレの案内表示もわかりやすく配慮。個人の居室に関しては安全確保のもと、自立支援を念頭に置いた空間を作っている。		

(別紙4(2))

事業所名: 下館ケアセンターそよ風

## 目標達成計画

作成日: 平成28年10月15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間	
1	35	災害対策について・・・ ①緊急通報システムが2階のグループホームに設置されていない。 ②地震に備え、ホールなどの食器棚の転倒防止対策がされていない。	①2階グループホームにも緊急通報システムを設置する。 ②早急に食器棚の転倒防止対策を行う。	①夜間帯の緊急時を考慮した場合、2階にも緊急通報システムが必要だと思うので、本社と相談し、設置を検討してもらう。 ②ホールの食器棚に限らず、居室も含め、地震による転倒防止対策がなされているか、今一度見直す。	3ヶ月
2	49	外出支援について・・・ 毎月、外出レクを行っているが、毎回参加される利用者様は自立度の高い方に偏ってしまう。 その原因はスタッフの人員不足が影響している。	比較的介護度の高い方の外出も実行出来るようにする。	一ヶ月の中で外出日を何回かに分け、当日の勤務シフトの調整、時にはご家族様の協力もお願いして、遠出の外出に拘らず、近場の公園の日光浴からでも実施していく。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。